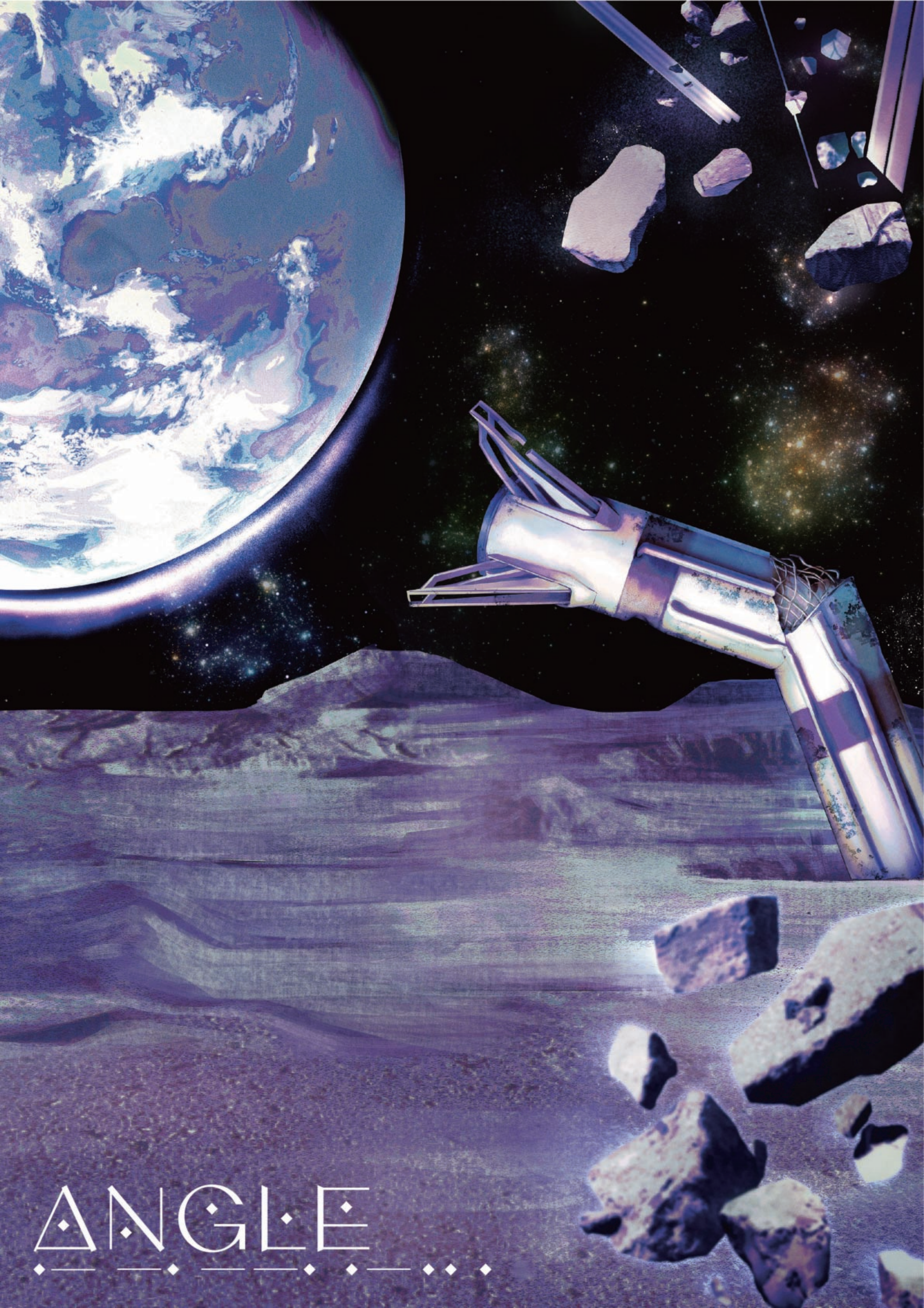




ANGLE



NOSTALGIA



ASTRONAUT



MOON ANGLE



千葉デザイナー学院
イラストレーションコース
宇井 快

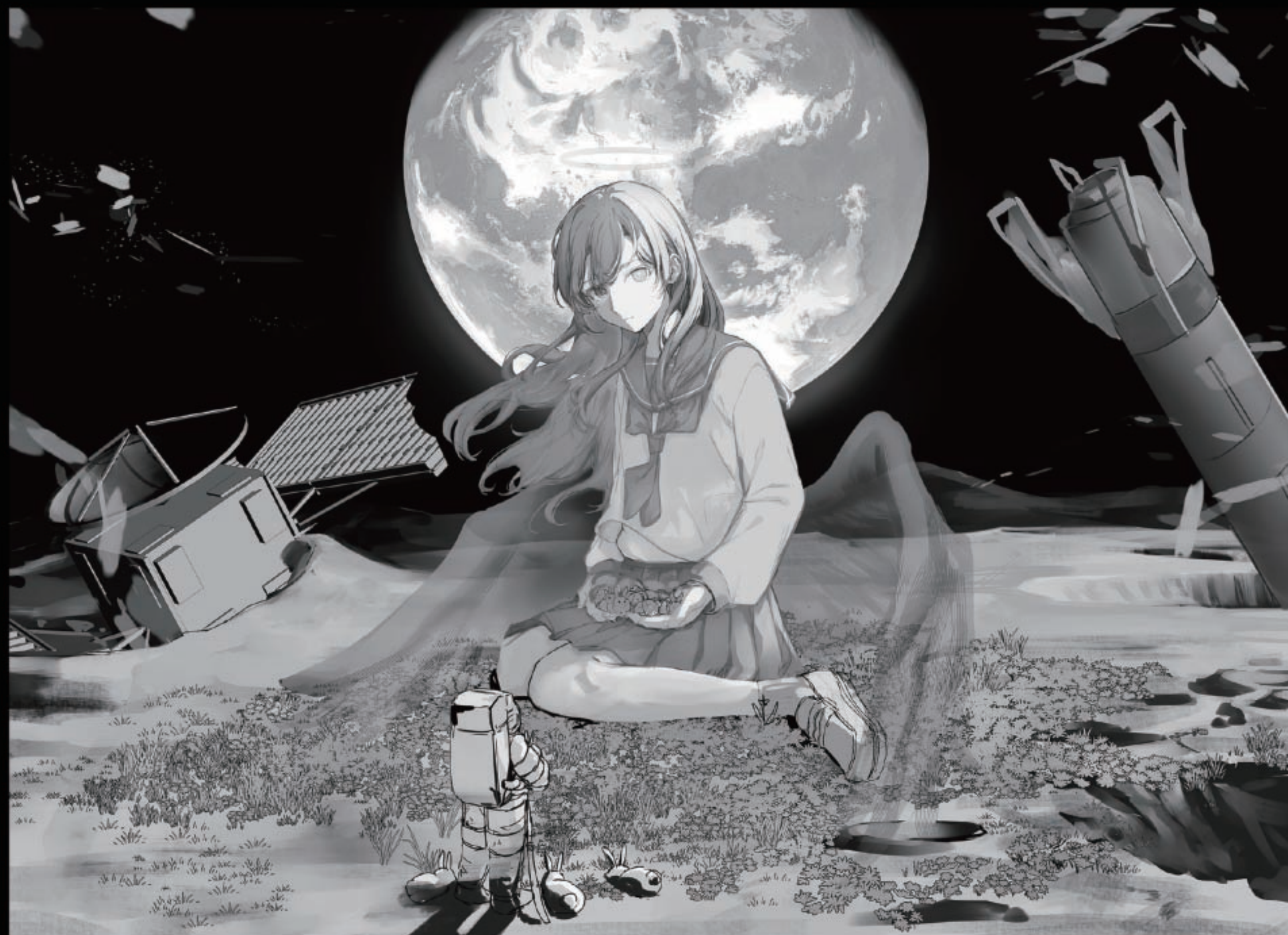
X

PF





■ 下書き・ラフの状態。大まかな構図と、こういったものを配置していくかを決めていく。地球、天使、宇宙飛行士が特に重要なものなので、中心のラインに並ぶようにした。



■ グリザイユ画法で進めていくため、ある程度のところまではモノクロで描き込んでいく。大体の形ができてきたら全体に色を乗せ、パーツごとに厚塗りで仕上げていく。



■ 背景完成状態。今回はアクリル版に両面印刷をし、人物と背景に奥行きを作るため、前景と重なるところも全て描画されています。宇宙空間の美しさを損なわないよう注意しました。



■ 前景完成状態。舞台である月面のレイヤー。メインの天使と、花畑の描き込みに注力しました。『不気味だけど綺麗』、そんな雰囲気になるよう全体の色味を決めていきました。



■つきのてんし

月に住む存在。頭上に光輪と、大きな翼を持つ。一般的には天使と呼称されるが、その実態は残酷。

感情がなく、人間の心のメカニズムを知るために月にやってきた人間を食べることで自分に心を生み出そうとしている。

■すがた

左図の姿は本来のものではなく、実際は言葉では言い表せない、なんとも形容できない醜悪な存在である。

その姿を見たものは、視覚伝達プロセスが阻害されることで本来の姿が認識できなくなる。その代わりに、観測者が最も望む姿として現れる。

食べられた者は存在が消えてしまうため危険性が認知されていないが、会いたい人に会うことができるため最期は幸せな気持ちのまま消えていく。

ASTRONAUT

■宇宙飛行士

月に行くために宇宙飛行士になった男。中学生の時に幼馴染を事故で亡くしたが、『月に行くと、自分の会いたい人に会える』という噂を聞いて月を目指す。

幼馴染の影響で幼い時から天体観測が趣味だった。それでも特に宇宙飛行士を目指していたわけではなかったが、事故をきっかけに目指すようになった。

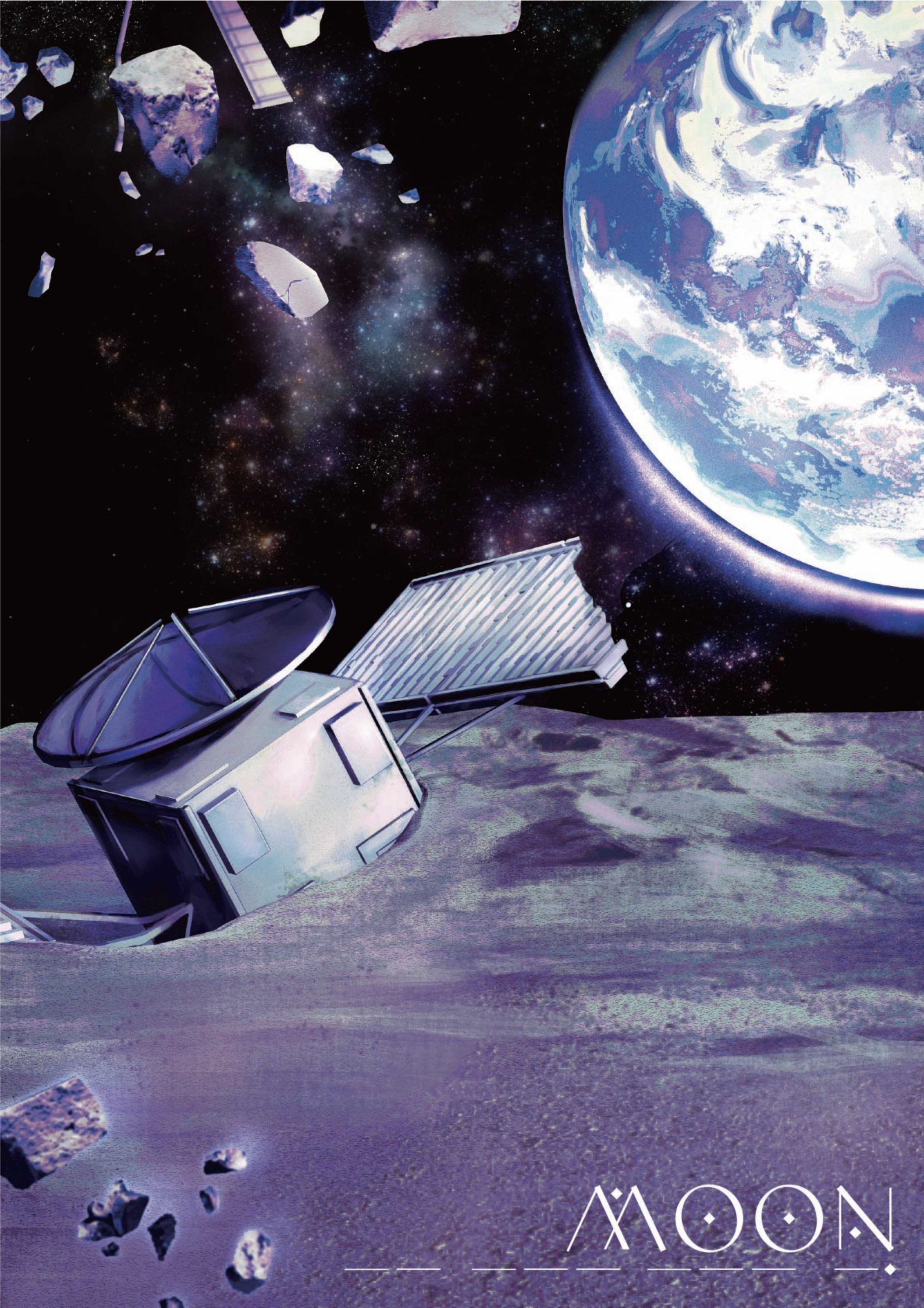
■物語の終わり

目指していた月にたどり着き、うさぎに案内されるがままに進むとそこには長い間会えなかった彼女がいた。

きっと本当のあの子ではないことは頭では理解していたが、懐かしいその姿を見ることができただけで幸せだった。

あの日から灰色になった自分の世界は、こんなにも美しかったのだと思い出した。この光景が最後となってしまってもきっと自分はきっと後悔しない。





MOON